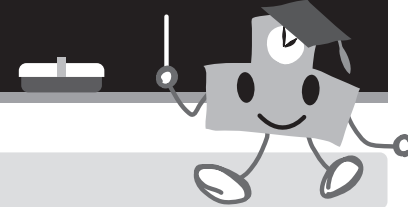


小学校の事例 白石区 北郷小学校

新校舎完成とともにソーラーパネル設置。見える化でエコへの関心もアップ。

ソーラーパネルは4年生の理科の光電池の授業で活用。発電量や二酸化炭素削減量など数値が見え、子どもにもはっきりわかるモニター。学習への利用の他にも工夫した取組を検討。



内容 4年生の光電池の学習で活用

昨年、新校舎の完成とともに、屋上にソーラーパネルが設置された。ソーラーパネル6基のうち、1基はフェンスで囲まれている。教員がついていけばいつでも見に行くことができる。その際には、「こうして太陽の光を集めて電気を作っているんだね」など一言声をかけ、環境やエコに目を向けるきっかけを作っている。

1階の図書室の横にはモニターを設置。モニターには、日差しの強さ、その日の発電量や二酸化炭素削減量、校内の消費電力量などが表示され、ソーラーパネルのようすも中継されている。特別に呼びかけをしているわけではないが、児童は頻りにこのモニターを見に来ている。特に、夏の日差しの強い日にはかなりの発電量があり、「晴れのときはこんなに違うんだ」と興味深そうに見ていた。普段目にするとところにあるようなモニターがあることで、自然と環境への意識が高まっている。

学習の面では、4年生の理科の光電池の授業で活用されている。授業の中では主にミニソーラーカーを教材として使っているが、「この何倍も大きなパネルが屋上に取りつけられていて、学校の電力をまかなっている」などと関連づけながら学んでいる。授業の中で光電池について学習することで、ソーラーパネルの働きをより深く理解できている。



屋上のソーラーシステム

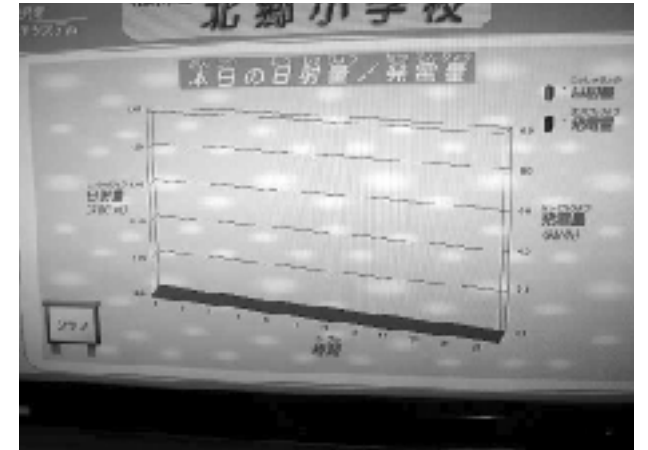


発電システムの表示パネル

今後 体験をともなう環境学習を多く取り入れる

現在、授業の中でソーラーパネルを活用しているのは4年生の理科のみである。ソーラーパネルを活用しての学習は実際には、これから工夫が必要であり、現時点では、学習の中に取り入れるのはなかなか難しいと感じる点もある。学習の際に、使用する光電池の実物を見ることができると、少しずつ学習の幅を広げ、取り入れていけたらと考えている。

また、6年生は平成22年、企業の新エネルギーについての出前授業を受けた。普段の授業とはまた違う、専門的な話を聞けたり実験を体験できたりと、児童は興味津々だった。例えば、5年生の自動車の学習でハイブリットカーや電気自動車などに触れるなど、今後も出前授業を活用しながら環境学習を進めていきたい。



「日射量／発電量」を表示



廊下に設置されたパネル

広げよう
つなげよう
環境学習の輪

実施校からメッセージ

これからの環境教育は、いろいろな角度で、いろいろな考え方に触れることが大切です。「環境」と銘打っているものは本当に全て正しいことなのか、「環境」や「エコ」という言葉だけが一人歩きしているように感じる場合があります。今後は、各々のエコ活動を多面的に見つめることをとおし、環境活動1つ1つを改めて見直していくことが必要ではないでしょうか。